おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（２０２０年２月）

「表現発表会」

せんりひじり幼稚園
副園長　安達 かえで

先日の表現発表会では、子どもたちに温かい拍手を送って下さりありがとうございました。担任は終わってほっとしているようですが、子どもたちはまだまだやりたそうです。

５部に分けて開演しましたが、それぞれの部に３学年入っていましたので、年齢ごとの姿の違いも感じていただけたかと思います。年少組はお話の世界に入って遊ぶことが楽しくて、その延長上に発表会があります。だからしっぽを着けた時から動物になりきっちゃうのが３歳児。年中組は、友達と心を合わせて、役になってお話を作り上げていくことが楽しくて仕方がない様子がうかがえます。

年長組になると、劇の全体を見通しながら、部分部分を丁寧に演じているように見えました。お話の起承転結を捉えながら、次は王様が出て来る場面だから、その前に大道具の椅子を出し、シンバルの合図で王様登場・・・といったように、劇を創り上げていく一員として話が途切れないように見通して動いていく姿が見られました。そして、どうやったらやまんばの恐ろしさが出せるか、どうやったら面白い漫才になるか、どうやったら不気味なお后様になるか、どうやったら楽しいガチョウの行列になるか、どうやったらとぼけた殿様の雰囲気が出せるかを考え、随所に細かい工夫がちりばめられていて、クラスの世界観が出ていました。

床屋が王様の耳のことを誰にも言えず、大きく膨らんでしまったお腹をお医者様に診てもらう場面がありました。診断結果の合図の音を鳴らす舞台袖の友達に、舞台上のお医者様が演技をしながら「まだ！」の合図を目や手でさりげなく送っているのです。自分たちの劇を自分たちで作り上げているという自信があるからこその姿です。こうなるといよいよ卒園です。育ったなあ・・・と喜んだと思ったら、すぐ送り出さないといけない寂しさが追いかけてきます。

このところ新型コロナウィルスによって、様々な不測の事態が起きています。WHO は、ワクチンの開発に 18 か月かかるとの見通しを示しているとのこと。これから、更に何が起きるか分からない予測不能な時代を生きていくことになる子どもたちには、自ら判断して自分たちの答えを見つけながら、自分を信じて進んでいく力が必要です。劇を見ながら、そんな力も「育っている・育っている・・・」と思いながら、写真を撮りまくっていた私でした。お家では、「『ももくりさんねん、かきはちねん・・』ってずっと歌っていました。」とか「前日まで何をするのか教えてくれなくて。お楽しみに・・・と言われました。」や「恥ずかしいって言っていましたけど、楽しそうに演じていました。」などの保護者の声が聞かれました。様々な姿があったようですが、支えて下さりありがとうございました。

・・・